Asset Management One

運 用 報 告 書（全体版）

ネット証券専用ファンドシリーズ 新興市場日本株 レアル型

第85期　<決算日　2018年 8 月13日>
第86期　<決算日　2018年 9 月13日>
第87期　<決算日　2018年10月15日>
第88期　<決算日　2018年11月13日>
第89期　<決算日　2018年12月13日>
第90期　<決算日　2019年 1 月15日>

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「ネット証券専用ファンドシリーズ 新興市場日本株 レアル型」は、2019年１月15日に第90期の決算を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2011年７月29日から2021年７月13日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬ」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託であるＤＩＡＭマネーマザーファンド受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	外国投資信託への投資を通じて、主としてわが国の新興市場の株式に実質的な投資を行います。 外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。 外国投資信託の円建て資産部分については、原則として対ブラジルレアルで為替取引（円売りレアル買いの為替予約取引等）を行います。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	決算日（原則として毎月13日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。

<運用報告書に関するお問い合わせ先>
コールセンター：0120-104-694
受付時間：営業日の午前９時から午後５時まで
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne株式会社
東京都千代田区丸の内1-8-2
http://www.am-one.co.jp/

ネット証券専用ファンドシリーズ 新興市場日本株 レアル型

■最近５作成期の運用実績

作成期	決算期	基準価額 (分配落)	基準価額 税込み分配金	基準価額 期中騰落率	投資信託受益証券組入比率	純資産総額
		円	円	%	%	百万円
第11作成期	61期(2016年８月15日)	17,952	60	△5.7	96.9	713
	62期(2016年９月13日)	17,234	60	△3.7	97.0	679
	63期(2016年10月13日)	19,087	60	11.1	97.3	724
	64期(2016年11月14日)	17,830	60	△6.3	96.5	686
	65期(2016年12月13日)	19,836	60	11.6	97.1	761
	66期(2017年１月13日)	22,061	60	11.5	96.6	847
第12作成期	67期(2017年２月13日)	22,884	60	4.0	96.3	866
	68期(2017年３月13日)	24,146	60	5.8	96.7	1,119
	69期(2017年４月13日)	21,910	60	△9.0	95.8	975
	70期(2017年５月15日)	25,341	60	15.9	98.8	1,055
	71期(2017年６月13日)	25,289	60	0.0	97.7	1,096
	72期(2017年７月13日)	26,852	60	6.4	97.7	1,229
第13作成期	73期(2017年８月14日)	25,687	60	△4.1	97.1	1,166
	74期(2017年９月13日)	26,466	60	3.3	97.1	1,116
	75期(2017年10月13日)	27,174	60	2.9	98.0	1,123
	76期(2017年11月13日)	27,263	60	0.5	99.2	1,031
	77期(2017年12月13日)	28,852	60	6.0	99.0	1,058
	78期(2018年１月15日)	32,119	60	11.5	99.0	1,168
第14作成期	79期(2018年２月13日)	28,268	60	△11.8	98.8	1,032
	80期(2018年３月13日)	31,290	60	10.9	97.9	1,216
	81期(2018年４月13日)	29,056	60	△6.9	97.6	1,060
	82期(2018年５月14日)	27,777	60	△4.2	98.7	1,010
	83期(2018年６月13日)	29,121	60	5.1	98.9	1,036
	84期(2018年７月13日)	27,588	60	△5.1	98.9	965
第15作成期	85期(2018年８月13日)	26,273	60	△4.5	98.9	911
	86期(2018年９月13日)	24,253	60	△7.5	99.1	839
	87期(2018年10月15日)	26,689	60	10.3	98.5	907
	88期(2018年11月13日)	26,868	60	0.9	99.0	915
	89期(2018年12月13日)	23,603	60	△11.9	98.6	802
	90期(2019年１月15日)	21,501	60	△8.7	98.8	720

（注１）基準価額の騰落率は分配金込みです。
（注２）当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標を定めておりません。
（注３）「投資信託受益証券組入比率」にはマザーファンドの比率を含みません。
（注４）△（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

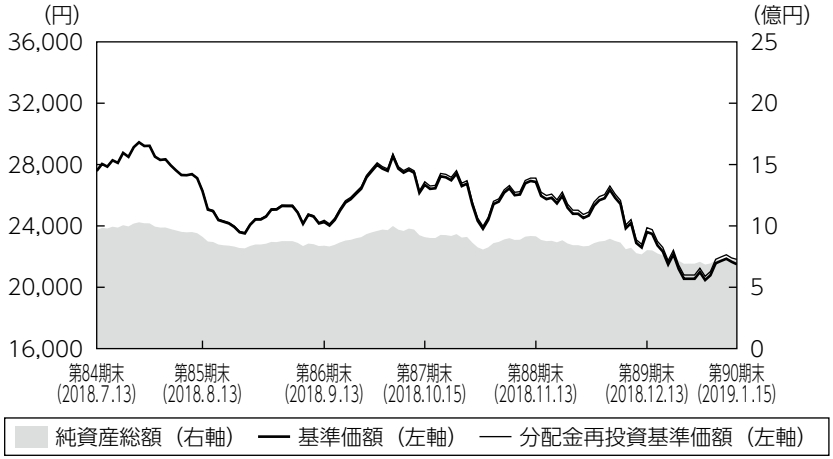
■過去６ヶ月間の基準価額の推移

決算期	年月日	基準価額	騰落率	投資信託受益証券組入比率
		円	%	%
第85期	(期首) 2018年7月13日	27,588	－	98.9
	7月末	28,513	3.4	99.0
	(期末) 2018年8月13日	26,333	△4.5	98.9
第86期	(期首) 2018年8月13日	26,273	－	98.9
	8月末	25,067	△4.6	99.1
	(期末) 2018年9月13日	24,313	△7.5	99.1
第87期	(期首) 2018年9月13日	24,253	－	99.1
	9月末	27,583	13.7	99.1
	(期末) 2018年10月15日	26,749	10.3	98.5
第88期	(期首) 2018年10月15日	26,689	－	98.5
	10月末	24,391	△8.6	99.0
	(期末) 2018年11月13日	26,928	0.9	99.0
第89期	(期首) 2018年11月13日	26,868	－	99.0
	11月末	25,677	△4.4	98.8
	(期末) 2018年12月13日	23,663	△11.9	98.6
第90期	(期首) 2018年12月13日	23,603	－	98.6
	12月末	20,994	△11.1	98.7
	(期末) 2019年1月15日	21,561	△8.7	98.8

（注１）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。
（注２）「投資信託受益証券組入比率」にはマザーファンドの比率を含みません。

■第85期～第90期の運用経過（2018年７月14日から2019年１月15日まで）

基準価額等の推移



第85期首：　27,588円
第90期末：　21,501円
（既払分配金360円）
騰　落　率：　△20.9%
（分配金再投資ベース）

（注１）分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注２）分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
（注３）分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
（注４）当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

作成期を通じてブラジルレアルは対円で上昇したものの、米中関係の悪化が嫌気されたことに加えて、米国の景気減速懸念や政権運営の不透明感の高まりを受けて米国株式市場が急落したことなどから、日本株への売り圧力も強まり、ユーザベースなどの保有銘柄が下落したことなどから、基準価額は下落しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬ	△20.8%
ＤＩＡＭマネーマザーファンド	△0.0%

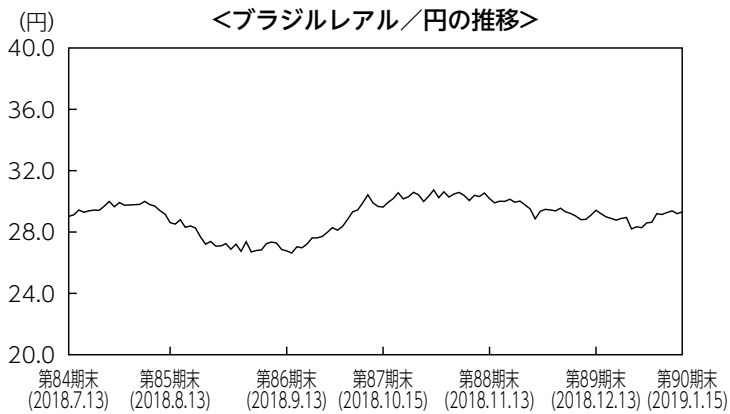
（注）ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬの騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。

投資環境

国内株式市場は、2018年９月後半に、米国の長期金利上昇に伴い円安が進行したことや自動車関税問題が後退したことなどを要因として上昇したものの、10月以降は米国株の急落や中国株安、リスク回避姿勢の強まりに伴う円高進行などから株価の調整が加速し、世界景気や企業業績の先行きへの警戒感も強まったことから、大きく下落しました。2019年に入ると、米中通商協議進展への期待の高まりや米国株の下げ止まりを好感し、作成期末にかけて国内株式市場も反発しました。

為替市場では、2018年８月に新興国全般に対する市場心理が悪化したことに加え、10月のブラジル大統領選挙に対する不透明感の高まりから、ブラジルレアルは大きく下落しました。９月には構造改革に前向きとみられるボルソナロ候補が優勢との見方が広がり、ブラジルレアルは反発しましたが、11月以降は財政改革などについて目立った進展が見られないことに対する失望などから下落に転じました。作成期末にかけては新政権発足による期待感などから上昇し、前作成期末比ではブラジルレアルは対円で上昇しました。

国内短期金融市場では、３ヵ月国庫短期証券利回りは作成期初から△0.14％程度で推移していましたが、2018年10月に入ると需給要因によって△0.32％程度まで急低下しました。その後は反発し、作成期末にかけて概ね△0.16％程度まで上昇しました。



ポートフォリオについて

●当ファンド

ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬの組入比率は原則として高位を維持し、ＤＩＡＭマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬ

日本の新興株式市場はボラティリティ（価格の変動性）の高い市場環境が継続したため、慎重な運用を心掛けました。医薬品や情報・通信業など企業価値の高まりを期待させる銘柄を中心に組入れを行いました。

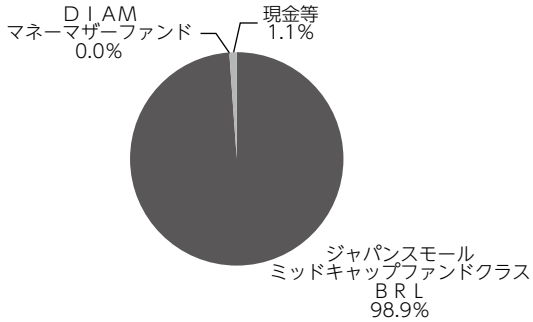
また、円売りブラジルレアル買いの為替取引等を行いました。

●ＤＩＡＭマネーマザーファンド

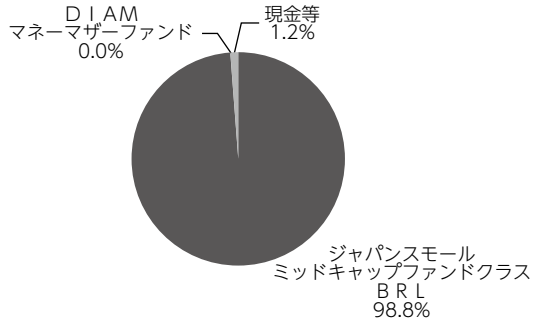
残存期間の短い政府保証債を中心とした運用を行いました。

ポートフォリオ構成　※比率は純資産総額に対する割合です。

前作成期末



当作成期末



分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきました。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（１万口当たり）

項目	第85期	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
	2018年7月14日～2018年8月13日	2018年8月14日～2018年9月13日	2018年9月14日～2018年10月15日	2018年10月16日～2018年11月13日	2018年11月14日～2018年12月13日	2018年12月14日～2019年1月15日
当期分配金（税引前）	60円	60円	60円	60円	60円	60円
対基準価額比率	0.23%	0.25%	0.22%	0.22%	0.25%	0.28%
当期の収益	37円	40円	60円	60円	41円	42円
当期の収益以外	22円	19円	－円	－円	18円	17円
翌期繰越分配対象額	23,467円	23,448円	23,455円	23,455円	23,436円	23,419円

（注１）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
（注２）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第３位を四捨五入しています。
（注３）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬを高位に組入れることを基本とした運用を行います。また、ＤＩＡＭマネーマザーファンドへの投資も行います。

●ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬ

世界景気や日米の企業業績への先行き不透明感などにより神経質な展開も想定されますが、株価バリュエーションには割安感が台頭しており、市場は底堅く推移すると思われます。引き続き、困難な社会的課題に志を持って取り組む経営陣や、技術力、組織力を備えた企業を特に評価したいと考えています。産学官（産業界、学校、官公庁）や大企業の経営資源を活用するなど、オープンイノベーション（企業の内部と外部の技術やアイディアを組み合わせることで、革新的なビジネスモデルなどを生み出すこと）に取り組む会社にも期待し、銘柄選択に努めていく方針です。加えて、円売りブラジルレアル買いの為替予約取引等を行います。

●ＤＩＡＭマネーマザーファンド

日銀の金融政策の物価目標２％までは依然として距離があるため、当面は政策の据え置きが予想されます。マイナス金利政策が継続されると考えられるため、政府保証債や地方債などを中心に運用を行っていきます。

■１万口当たりの費用明細

項目	第85期～第90期 (2018年７月14日～2019年１月15日)		項目の概要
	金額	比率	
(ａ) 信託報酬	159円	0.626%	(ａ) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は25,329円です。
(投信会社)	(57)	(0.225)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(97)	(0.384)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	(4)	(0.016)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(ｂ) その他費用	0	0.001	(ｂ) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	159	0.627	

(注１) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注２) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注３) 比率欄は「１万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
(注４) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

■売買及び取引の状況（2018年７月14日から2019年１月15日まで）

投資信託受益証券

		第85期～第90期			
		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
		千口	千円	千口	千円
外国(邦貨建)	ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬ	1.15466	33,000	2.615	69,668

(注) 金額は受渡代金です。

■親投資信託受益証券の設定、解約状況（2018年７月14日から2019年１月15日まで）

期中の親投資信託受益証券の設定、解約はありません。

■利害関係人との取引状況等（2018年７月14日から2019年１月15日まで）

【ネット証券専用ファンドシリーズ 新興市場日本株 レアル型における利害関係人との取引状況等】

期中の利害関係人との取引等はありません。

【ＤＩＡＭマネーマザーファンドにおける利害関係人との取引状況等】

期中の利害関係人との取引状況

決算期	第85期～第90期					
区分	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況B	B／A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況D	D／C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	443	202	45.6	200	－	－

平均保有割合　0.0%

（注）平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第１項に規定される利害関係人であり、当作成期における当ファンドにかかる利害関係人とは、みずほ証券です。

■組入資産の明細

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第14作成期末	第15作成期末		
	口数	口数	評価額	比率
	千口	千口	千円	%
ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬ	33.39619	31.93585	711,818	98.8
合計	33.39619	31.93585	711,818	98.8

（注）比率欄は純資産総額に対する比率です。

(2) 親投資信託残高

	第14作成期末	第15作成期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ＤＩＡＭマネーマザーファンド	103	103	104

■投資信託財産の構成

2019年１月15日現在

項目	第15作成期末	
	評価額	比率
	千円	%
投資信託受益証券	711,818	98.4
ＤＩＡＭマネーマザーファンド	104	0.0
コール・ローン等、その他	11,425	1.6
投資信託財産総額	723,348	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨ててあります。％は、小数点第２位を四捨五入しています。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2018年８月13日)、(2018年９月13日)、(2018年10月15日)、(2018年11月13日)、(2018年12月13日)、(2019年１月15日)現在

項目	第85期末	第86期末	第87期末	第88期末	第89期末	第90期末
(A) 資産	**915,801,941円**	**843,746,871円**	**947,640,889円**	**919,582,945円**	**805,835,611円**	**723,348,344円**
コール・ローン等	14,401,881	11,962,270	16,217,408	13,372,753	14,146,369	11,425,200
投資信託受益証券(評価額)	901,295,055	831,679,607	894,513,397	906,105,198	791,584,237	711,818,160
DIAMマネーマザーファンド(評価額)	105,005	104,994	104,994	104,994	105,005	104,984
未収入金	－	－	36,805,090	－	－	－
(B) 負債	**4,145,661**	**4,634,736**	**39,684,888**	**3,961,088**	**3,285,370**	**2,891,853**
未払収益分配金	2,081,967	2,075,935	2,041,200	2,044,684	2,040,151	2,010,465
未払解約金	1,034,222	1,665,632	36,651,472	1,043,447	379,756	72,035
未払信託報酬	1,026,786	890,839	989,707	870,795	863,316	807,350
その他未払費用	2,686	2,330	2,509	2,162	2,147	2,003
(C) 純資産総額(A－B)	**911,656,280**	**839,112,135**	**907,956,001**	**915,621,857**	**802,550,241**	**720,456,491**
元本	346,994,621	345,989,276	340,200,152	340,780,782	340,025,257	335,077,643
次期繰越損益金	564,661,659	493,122,859	567,755,849	574,841,075	462,524,984	385,378,848
(D) 受益権総口数	**346,994,621口**	**345,989,276口**	**340,200,152口**	**340,780,782口**	**340,025,257口**	**335,077,643口**
1万口当たり基準価額(C/D)	**26,273円**	**24,253円**	**26,689円**	**26,868円**	**23,603円**	**21,501円**

（注）第84期末における元本額は350,044,995円、当作成期間（第85期～第90期）中における追加設定元本額は42,172,161円、同解約元本額は57,139,513円です。

■損益の状況

項目	第85期 自2018年7月14日 至2018年8月13日	第86期 自2018年8月14日 至2018年9月13日	第87期 自2018年9月14日 至2018年10月15日	第88期 自2018年10月16日 至2018年11月13日	第89期 自2018年11月14日 至2018年12月13日	第90期 自2018年12月14日 至2019年1月15日
(A) 配当等収益	**2,319,313円**	**2,311,466円**	**2,251,300円**	**2,259,606円**	**2,261,778円**	**2,234,336円**
受取配当金	2,320,314	2,312,198	2,252,224	2,260,770	2,262,588	2,235,142
受取利息	5	3	2	5	3	7
支払利息	△1,006	△735	△926	△1,169	△813	△813
(B) 有価証券売買損益	**△45,089,063**	**△68,626,581**	**78,396,478**	**7,194,487**	**△109,830,633**	**△68,902,328**
売買益	181,642	943,113	82,822,930	7,198,002	633,668	2,025,462
売買損	△45,270,705	△69,569,694	△4,426,452	△3,515	△110,464,301	△70,927,790
(C) 信託報酬等	**△1,029,472**	**△893,169**	**△992,216**	**△872,957**	**△865,463**	**△809,353**
(D) 当期損益金(A+B+C)	**△43,799,222**	**△67,208,284**	**79,655,562**	**8,581,136**	**△108,434,318**	**△67,477,345**
(E) 前期繰越損益金	**100,927,802**	**54,159,324**	**△14,143,248**	**62,290,224**	**67,921,282**	**△41,295,028**
(F) 追加信託差損益金	**509,615,046**	**508,247,754**	**504,284,735**	**506,014,399**	**505,078,171**	**496,161,686**
(配当等相当額)	(574,736,050)	(576,240,586)	(577,956,088)	(583,416,049)	(584,488,391)	(579,177,203)
(売買損益相当額)	(△65,121,004)	(△67,992,832)	(△73,671,353)	(△77,401,650)	(△79,410,220)	(△83,015,517)
(G) 合計(D+E+F)	**566,743,626**	**495,198,794**	**569,797,049**	**576,885,759**	**464,565,135**	**387,389,313**
(H) 収益分配金	**△2,081,967**	**△2,075,935**	**△2,041,200**	**△2,044,684**	**△2,040,151**	**△2,010,465**
次期繰越損益金(G+H)	**564,661,659**	**493,122,859**	**567,755,849**	**574,841,075**	**462,524,984**	**385,378,848**
追加信託差損益金	509,615,046	508,247,754	504,284,735	506,014,399	505,078,171	496,161,686
(配当等相当額)	(574,736,050)	(576,240,586)	(577,956,088)	(583,416,049)	(584,488,391)	(579,177,203)
(売買損益相当額)	(△65,121,004)	(△67,992,832)	(△73,671,353)	(△77,401,650)	(△79,410,220)	(△83,015,517)
分配準備積立金	239,586,392	235,066,948	219,992,939	215,906,265	212,422,294	205,556,223
繰越損益金	△184,539,779	△250,191,843	△156,521,825	△147,079,589	△254,975,481	△316,339,061

(注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注2) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注4) 分配金の計算過程

項目	第85期	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
(a) 経費控除後の配当等収益	1,289,896円	1,418,349円	2,223,664円	2,051,018円	1,396,363円	1,425,031円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	574,736,050	576,240,586	577,956,088	583,416,049	584,488,391	579,177,203
(d) 分配準備積立金	240,378,463	235,724,534	219,810,475	215,899,931	213,066,082	206,141,657
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	816,404,409	813,383,469	799,990,227	801,366,998	798,950,836	786,743,891
(f) 1万口当たり当期分配対象額	23,527.87	23,508.92	23,515.28	23,515.62	23,496.81	23,479.45
(g) 分配金	2,081,967	2,075,935	2,041,200	2,044,684	2,040,151	2,010,465
(h) 1万口当たり分配金	60	60	60	60	60	60

■分配金のお知らせ

決　算　期	第 85 期	第 86 期	第 87 期	第 88 期	第 89 期	第 90 期
1万口当たり分配金	60円	60円	60円	60円	60円	60円

※分配金を再投資する場合、分配金は税引後自動的に無手数料で再投資されます。

分配金の課税上の取扱いについて

・追加型株式投資信託の分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。

○分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。

○分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、分配金から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における受益者毎の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の受益者毎の個別元本となります。

ジャパンスモールミッドキャップファンドクラスＢＲＬ

当ファンドは「ネット証券専用ファンドシリーズ 新興市場日本株 レアル型」が投資対象とする外国投資信託です。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

形　　態	ケイマン籍円建て外国投資信託
主要投資対象	主としてわが国の新興市場の株式*を投資対象とします。 ＊取得時において新興市場に上場（上場予定を含む）している銘柄とします。
投資態度	①主としてわが国の新興市場の株式への投資を通じて、中長期的な信託財産の成長を目的として、積極的な運用を行います。 ②わが国のジャスダック、東証マザーズ等の上場株式を対象に、流動性、時価総額、信用力等を勘案し、基本ユニバースを策定します。基本ユニバースの銘柄を対象に、成長力、競争力、収益力、株価水準等を分析し、ファンダメンタルズおよびバリュエーションの観点から魅力的な銘柄を選択し、ポートフォリオを構築します。 ③株式への投資比率は、原則として高位を保ちます。 ④運用の効率化を図るため、わが国の株価指数を対象とした株価指数先物取引（日本以外での取引も含みます。）を活用する場合があります。 ⑤円建て資産については、原則として、円売り／ブラジルレアル買いの為替取引を行います。この場合、為替予約取引等を活用します。 ⑥銘柄選択にあたっては、アセットマネジメントOneの運用助言を受けます。
主な投資制限	①有価証券の空売りは行いません。 ②デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。 ③純資産総額の10％を超える借入れは行いません。 ④投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、純資産総額の５％以内とします。
投資顧問会社	アセットマネジメントOne インターナショナル・リミテッド
副投資顧問会社	アセットマネジメントOne株式会社
受託銀行	CIBC BANK AND TRUST COMPANY (CAYMAN) LIMITED
管理事務代行会社、保管銀行	Brown Brothers Harriman & Co.

ジャパンスモールミッドキャップファンドはケイマン籍外国投資信託で、2017年12月29日に会計期間が終了し、現地の公認会計士による財務諸表監査を受けて完了しています。以下は、2017年12月29日現在の財務諸表の原文の一部を翻訳・抜粋したものです。

損益計算書
自2017年１月１日　至2017年12月29日
(円建投資信託)

投資収益		
受取利息	¥	1,626
配当収益（¥1,120,618の源泉税控除後）		6,196,498
投資収益合計		6,198,124
費用		
会計処理・管理事務手数料		9,120,067
専門家報酬		4,812,909
投資運用報酬		3,729,794
信託報酬		2,031,307
証券代行手数料		1,563,517
保管手数料		429,128
為替代行手数料		207,200
支払利息		192,597
費用合計		22,086,519
投資純損失		(15,888,395)
実現純利益／損失および未実現評価益／損の純変動分		
実現純利益／損失：		
投資有価証券の売却		113,948,692
先物取引		5,213,421
外国為替取引および為替先渡契約		93,287,503
実現純利益		212,449,616
未実現評価益／損の純変動：		
投資有価証券		209,469,581
先物取引		415,000
外貨換算よび為替先渡契約		(62,549,788)
未実現評価益の純変動分		147,334,793
実現純利益および未実現評価益の純変動分		359,784,409
運用による純資産の純増額	**¥**	**343,896,014**

要約組入資産明細（2017年12月29日現在）

銘柄	数量	取得原価	公正価値	対純資産比率
普通株式				
日本				
広告		¥ 35,958,967	¥ 35,690,000	3.4%
自動車部品・用品		2,684,038	2,706,000	0.3%
銀行		4,786,820	4,758,000	0.4%
バイオテクノロジー		296,528	280,000	0.0%
化学		240,144	273,800	0.0%
商業サービス		76,350,803	92,092,200	8.7%*
コンピューター		12,198,004	19,299,000	1.8%
各種金融サービス		18,544,019	16,537,000	1.6%
電力		107,744	106,200	0.0%
電気部品・設備		382,729	480,000	0.0%
電子機器		15,726,941	19,562,400	1.8%
土木・建設		19,694,554	29,241,000	2.7%
ヘルスケア製品		6,612,981	6,815,000	0.6%
ヘルスケアサービス				
PeptiDream, Inc.	14,000	16,681,971	54,040,000	5.1%
その他		24,354,930	27,499,200	2.6%
インターネット				
Ceres, Inc.	25,000	38,249,256	57,950,000	5.4%
en-japan, Inc.	14,000	23,437,296	74,340,000	7.0%
その他		272,468,289	366,437,100	34.4%*
機械 - その他		8,097,310	13,380,200	1.3%
医薬品		19,019,893	22,896,500	2.2%
不動産		18,672,538	14,705,100	1.4%
小売り		2,522,575	3,263,500	0.3%
半導体		21,276,461	36,453,800	3.4%
ソフトウェア		27,890,847	33,124,500	3.1%
通信				
Grace Technology, Inc.	8,100	20,948,075	65,286,000	6.1%
その他		681,530	644,000	0.1%
玩具・ゲーム・ホビー		299,959	268,500	0.0%
日本合計		**688,185,202**	**998,129,000**	**93.7%**
普通株式合計		**688,185,202**	**998,129,000**	**93.7%**

銘柄		元本	取得原価	公正価値	対純資産比率
短期金融資産					
日本					
定期預金	JPY	78,729,171	78,729,171	78,729,171	7.4%
日本合計			**78,729,171**	**78,729,171**	**7.4%**
短期金融資産合計			**78,729,171**	**78,729,171**	**7.4%**
投資有価証券合計			**¥ 766,914,373**	**¥ 1,076,858,171**	**101.1%**
現金およびその他資産の負債超過額				**(12,042,937)**	**(1.1)%**
純資産				**¥ 1,064,815,234**	**100.0%**

＊個々の公正価値が純資産の5%未満の有価証券で構成されている。

クラスＢＲＬの2017年12月29日現在の為替先渡契約残高（対純資産比率－1.6%）

買建	契約先	契約金額	決済日	売建	契約金額		純額の未実現評価損
BRL	Citibank N.A.	30,903,991	01/30/2018	JPY	1,061,514,995	¥	(16,592,515)

2017年12月29日現在の先物取引契約残高（対純資産比率0.1%）

ポジション	内容	満期日	契約数		未実現評価益
ロング	ＴＯＰＩＸ先物2018年３月限	03/2018	3	¥	810,000

ＤＩＡＭマネーマザーファンド

運用報告書

第９期（決算日　2018年４月５日）

（計算期間　2017年４月６日～2018年４月５日）

ＤＩＡＭマネーマザーファンドの第９期の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2009年10月29日から無期限です。
運用方針	安定した収益の確保をめざします。
主要投資対象	国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにＣＤ、ＣＰ、コールローン等の国内短期金融資産を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合は、純資産総額の10％以下とします。 外貨建て資産への投資は行いません。

■最近５期の運用実績

決算期	基準価額		債券組入比率	新株予約権付社債(転換社債)	債券先物比率	純資産総額
		期中騰落率				
	円	%	%	%	%	百万円
５期(2014年４月７日)	10,080	0.1	93.9	－	－	10,998
６期(2015年４月６日)	10,090	0.1	82.8	－	－	9,524
７期(2016年４月５日)	10,098	0.1	80.6	－	－	3,158
８期(2017年４月５日)	10,104	0.1	71.2	－	－	1,045
９期(2018年４月５日)	10,099	△0.0	71.1	－	－	1,030

（注１）債券先物比率は、買建比率－売建比率です。
（注２）当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標を定めておりません。
（注３）△（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

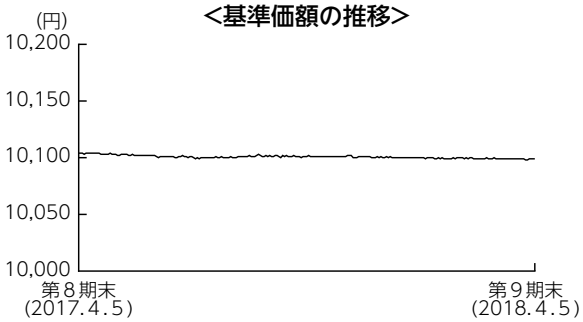
■当期中の基準価額の推移

年　月　日	基準価額		債券組入比率	新株予約権付社債(転換社債)組入比率	債券先物比率
		騰落率			
(期　首)	円	%	%	%	%
2017年 4 月 5 日	10,104	－	71.2	－	－
4　月　末	10,104	0.0	71.2	－	－
5　月　末	10,102	△0.0	80.2	－	－
6　月　末	10,100	△0.0	77.9	－	－
7　月　末	10,100	△0.0	76.1	－	－
8　月　末	10,102	△0.0	56.9	－	－
9　月　末	10,101	△0.0	65.2	－	－
10　月　末	10,101	△0.0	77.6	－	－
11　月　末	10,100	△0.0	77.6	－	－
12　月　末	10,100	△0.0	70.1	－	－
2018年 1　月　末	10,100	△0.0	70.1	－	－
2　月　末	10,099	△0.0	79.5	－	－
3　月　末	10,098	△0.1	71.1	－	－
(期　末)					
2018年 4 月 5 日	10,099	△0.0	71.1	－	－

(注１) 騰落率は期首比です。
(注２) 債券先物比率は、買建比率－売建比率です。

■当期の運用経過（2017年４月６日から2018年４月５日まで）

<基準価額の推移>



基準価額の推移

当期末の基準価額は10,099円となり、前期末比で0.05％下落しました。

基準価額の主な変動要因

日銀のマイナス金利政策の影響により残存期間の短い政府保証債等の利回りが上昇（価格は下落）したことから、基準価額は下落しました。

投資環境

国内短期金融市場では、３ヵ月国庫短期証券利回りは△0.25％～△0.09％で推移しました。2017年８月から11月末の間には需給要因から利回りが上下する局面もありましたが、概ね△0.15％を中心としたレンジで推移しました。

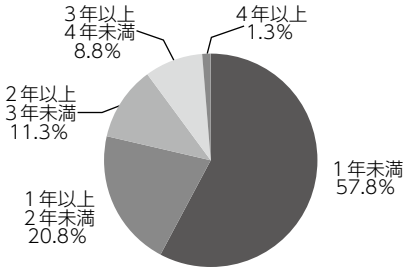
ポートフォリオについて

残存期間の短い政府保証債を中心とした運用を行いました。

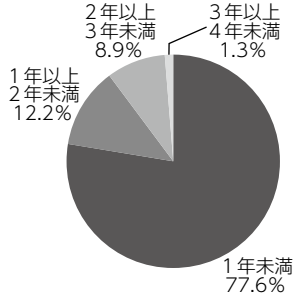
【運用状況】 ※比率は組入債券の時価評価額に対する割合です。

○残存年限別構成比

期首（前期末）



当期末



今後の運用方針

日銀の金融政策の物価目標２％までは依然として距離があるため、当面は政策の据え置きが予想されます。マイナス金利政策が継続されると考えられるため、政府保証債や地方債などを中心に運用を行います。

■１万口当たりの費用明細

計算期間中に発生した費用はありません。

■売買及び取引の状況（2017年４月６日から2018年４月５日まで）

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	300,097	100,016 (200,000)
	地方債証券	17,719	－ (68,770)
	特殊債券	405,052	－ (360,000)

（注１）金額は受渡代金です（経過利子分は含まれておりません）。
（注２）（　）内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■利害関係人との取引状況等（2017年４月６日から2018年４月５日まで）

期中の利害関係人との取引等はありません。

（注）利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第１項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細

公社債

(A) 債券種類別開示

国内（邦貨建）公社債

区分	当期末						
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
地方債証券	130,780	131,175	12.7	－	－	2.8	10.0
特殊債券	595,000	601,037	58.3	－	－	4.5	53.8
合計	725,780	732,213	71.1	－	－	7.3	63.8

（注）組入比率は、期末の純資産総額に対する評価額の比率であり、小数点第２位を四捨五入しています。

(B) 個別銘柄開示

国内（邦貨建）公社債銘柄別

銘柄	当期末			
	利率	額面金額	評価額	償還年月日
（地方債証券）	%	千円	千円	
２５年度６回　静岡県公募公債	0.3420	13,250	13,265	2018/08/23
２５年度　京都府京都みらい債	0.3000	6,000	5,999	2018/09/03
２５年度１回　ぐんま県民債	0.2600	4,000	3,998	2018/10/30
2回　東京都公募公債（東京グローバル都債（円貨））	0.1200	5,000	4,996	2018/12/07
２５年度８回　福岡県公募公債	0.2700	6,700	6,696	2018/12/25
２６年度４回　静岡県公募公債	0.2090	14,810	14,842	2019/06/24
２６年度１回　大阪市みおつくし債	0.2200	6,000	5,992	2019/06/27
２１年度６回　愛知県公募公債	1.4400	10,000	10,185	2019/07/30
２６年度　京都府京都みらい債	0.1600	9,200	9,179	2019/09/02
３３１回　大阪府公募公債	1.4100	10,000	10,216	2019/10/29
２６年度７回　福岡県公募公債	0.2000	6,500	6,486	2019/12/25
４３回　川崎市公募公債　５年	0.1370	10,850	10,872	2020/03/19
２７年度２回　千葉県公募公債	0.1770	14,670	14,715	2020/05/25
２７年度　京都府京都みらい債	0.1000	13,800	13,726	2020/09/02
小計	－	130,780	131,175	－
（特殊債券）	%	千円	千円	
１９４回　政保中小企業債券	1.5000	100,000	100,695	2018/09/18
１回　政保地方公営企業金融機構債券	1.6000	100,000	100,865	2018/10/16
１９９回　政保預金保険機構債券	0.1000	100,000	100,068	2018/10/16
７１回　政保日本高速道路保有・債務返済機構	1.4000	100,000	101,033	2018/12/25
１５回　政保東日本高速道路債券	1.3000	100,000	101,187	2019/02/25
５５回　政保関西国際空港債	1.3000	29,000	29,373	2019/03/25

銘柄	当期末			
	利率	額面金額	評価額	償還年月日
（特殊債券）	%	千円	千円	
８９回　政保日本高速道路保有・債務返済機構	1.3000	4,000	4,079	2019/09/30
９３回　政保日本高速道路保有・債務返済機構	1.4000	8,000	8,189	2019/11/29
１００回　政保日本高速道路保有・債務返済機構	1.4000	9,000	9,244	2020/02/28
１１２回　政保日本高速道路保有・債務返済機構	1.1000	30,000	30,786	2020/07/31
１１７回　政保日本高速道路保有・債務返済機構	1.0000	6,000	6,153	2020/09/30
１３３回　政保日本高速道路保有・債務返済機構	1.3000	5,000	5,203	2021/04/30
１３７回　政保日本高速道路保有・債務返済機構	1.2000	4,000	4,158	2021/06/30
小計	－	595,000	601,037	－
合計	－	725,780	732,213	－

■投資信託財産の構成

2018年４月５日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
公社債	732,213	71.1
コール・ローン等、その他	298,257	28.9
投資信託財産総額	1,030,471	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨ててあります。％は、小数点第２位を四捨五入しています。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2018年４月５日)現在

項目	当期末
(A) 資産	**1,030,471,057円**
コール・ローン等	296,878,113
公社債(評価額)	732,213,335
未収利息	1,083,993
前払費用	295,616
(B) 負債	**－**
(C) 純資産総額(A－B)	**1,030,471,057**
元本	1,020,388,428
次期繰越損益金	10,082,629
(D) 受益権総口数	**1,020,388,428口**
１万口当たり基準価額(C／D)	**10,099円**

(注１) 期首元本額 1,034,991,821円
追加設定元本額 5,445,811円
一部解約元本額 20,049,204円

(注２) 期末における元本の内訳

クルーズコントロール	990,000,991円
ダイナミック・ナビゲーション	98,711円
ＤＩＡＭ新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<円コース>	870,000円
ＤＩＡＭ新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<豪ドルコース>	530,000円
ＤＩＡＭ新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<南アフリカランドコース>	70,000円
ＤＩＡＭ新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<ブラジルレアルコース>	10,530,000円
世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）<円コース>	1,281,836円
世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）<豪ドルコース>	246,797円
世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）<ブラジルレアルコース>	1,689,581円
世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）<中国元コース>	654,944円
ＤＩＡＭ新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<中国元コース>	149,716円
ネット証券専用ファンドシリーズ　新興市場日本株　レアル型	103,986円
ＤＩＡＭ　グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド　資源国通貨バスケットコース	4,486,988円
ＤＩＡＭ　グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド　ブラジルレアルコース	4,586,699円
ＤＩＡＭ　グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド　円コース	997,109円
ＤＩＡＭ新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<米ドルコース>	5,972円
ＤＩＡＭ　米国リート・インカムプラス	994,728円
ＵＳストラテジック・インカム・ファンドＡコース（為替ヘッジあり）	993,740円
ＵＳストラテジック・インカム・ファンドＢコース（為替ヘッジなし）	1,987,479円
ＤＩＡＭ－ジャナス　グローバル債券コアプラス・ファンド<ＤＣ年金>	9,935円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）米ドルコース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）豪ドルコース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）メキシコペソコース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリラコース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）ブラジルレアルコース	9,925円
ＵＳストラテジック・インカム・ファンド（年１回決算型）ヘッジあり	9,924円
ＵＳストラテジック・インカム・ファンド（年１回決算型）ヘッジなし	9,924円
米国株式リスクコントロール戦略ファンド<為替ヘッジあり>	9,909円
米国株式リスクコントロール戦略ファンド<為替ヘッジなし>	9,909円
期末元本合計	1,020,388,428円

■損益の状況

当期　自2017年４月６日　至2018年４月５日

項目	当期
(A) 配当等収益	**6,427,083円**
受取利息	6,637,040
支払利息	△209,957
(B) 有価証券売買損益	**△6,932,206**
売買益	21,813
売買損	△6,954,019
(C) 当期損益金(A＋B)	**△505,123**
(D) 前期繰越損益金	**10,735,046**
(E) 解約差損益金	**△201,483**
(F) 追加信託差損益金	**54,189**
(G) 合計(C＋D＋E＋F)	**10,082,629**
次期繰越損益金(G)	**10,082,629**

(注１) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注２) (E)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。
(注３) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

《お知らせ》

■つみたてＮＩＳＡの要件を満たすため、約款に所要の変更を行いました。

（平成29年９月29日）

■信用リスクを適正に管理する方法を規定する所要の約款変更を行いました。

（平成30年３月１日）